



Title	井戸武實さんを偲ぶ
Author(s)	黒田, 研二
Citation	井戸武實の歩みと追悼集. 2025, p. 21-22
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/100726
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

井戸武實さんを偲ぶ

黒田 研二

西九州大学健康福祉学部長

大阪から離れて、佐賀県にある西九州大学に赴任してもうすぐ丸5年になります。井戸さんに長いことお会いしていなかった。井戸さんの訃報に接したのは、2024年8月25日に久留米大学医学部で開催された第65回日本社会医学会総会の席上でした。1年間にお亡くなりになった会員の名前が読み上げられ、参加者皆で黙祷をささげたのですが、その中に井戸さんのお名前があり、たいへん驚きました。そのあと高鳥毛敏雄さんから、心不全で急逝されたことをお聞きしました。井戸さんは、2012年7月に関西大学高槻キャンパスで高鳥毛さんを大会長として開催された第53回日本社会医学会総会の企画委員会事務局として大会を盛会に導いた功績で、名誉会員となっておられました。

井戸さんに初めてお会いしたのは、特定非営利活動法人 HEALTH SUPPORT OSAKA (NPO 法人 HESO) の事務局長に着任したときでした。2007年のことです。NPO 法人 HESO の法人認可は2006年10月で、あいりん地区の労働者やホームレス者の健康支援、とくに結核の検診活動を進めるために設立したものでした。代表理事は矢内純吉先生で、逢坂隆子さんや高鳥毛さん、山本繁さんを中心に理事を構成し、私もその中に参加しました。発足後1年ほどで井戸さんに事務局長を担っていただくことになりました。井戸さんは大阪府に40年勤務され定年を迎えられたところでした。

NPO 法人 HESO の設立の背景には、あいりん地区労働者への健康支援のそれまでの取組があります。2000年に大阪市内で死亡したホームレスの人々の変死体の調査を、逢坂さんを中心に、大阪府監察医事務所に勤務していた坂井芳夫さんの協力を得て実施した結果、年間死亡者数213例、死亡時平均年齢56.2歳、その死因は、病死172例、自殺47例、他殺6例、餓死8例と凍死12例を含む不慮の外因死43例。病死のうち29例は結核に関連する死亡だったことが明らかになります。2003年度から2005年度の3年間、私が主任研究者となり厚生労働科学研究補助金を受けて、大阪市高齢者特別就労（清掃）事業従事者の健康診査を実施しました。対象は主にあいりん地区の55歳以上のホームレスの人々です。また、2004年度から2006年度の3年間、逢坂さんが主任研究者となり、文部省科学研究費補助金を受けて、ホームレス者の健康・生活実態の解明と自立支援方策の研究に取り組みました。その過程で、2006年度から大阪市がCR結核検診車を運用することになりました。そこで、前述のようにNPO 法人 HESO を設立し、大阪市のホームレス結核対策の一部を受託して、大阪市と協働してあいりん地区を中心とする結核対策・健康支援活動を進めることになりました。

井戸さんがNPO 法人 HESO の事務局となり、次のようなさまざまな取組を展開することになります。あいりん地域を中心に日雇い労働者やホームレスの方々のレントゲンを毎年4千人ぐらい撮影し、結核の患者さんが発見されれば、すべての人に井戸さんは面談し、結核病床を持つ病院治療に結びつけます。入院後も連絡をとり、病院への訪問も行います。また、排菌してない結核患者さんが居宅に戻られたときに、訪問型DOTS、HESOに登録した保健師、看護師が当該者の患者さんの居宅

（3畳1間のアパートが多い）に出向いて完全服薬を支援します。

あいりん地区のホームレスの人々は井戸さんの存在を皆、知っており、HESO では研修生を受け入れて、その支援の現状を学んでもらいました。研修生は阪大医学生であったり、看護師やソーシャルワーカーを目指す学生であったり。全国の医学生や、国際支援をやっている人たちや海外の大学からも研修に来られ、井戸さんはプログラムを組んで研修を受け入れていました。

また、2010 年度から3 年間は、独立行政法人福祉医療機構の助成事業を活用し、結核の治療が終わった高齢者の人々の居場所づくり、交流の場作りも行いました。こうした取組を通じて、井戸さんは多くのあいりん地区の人々から慕われていました。

NPO 法人 HESO は、大阪市から受託事業を終えて 2013 年に解散することになりました。井戸さんは、その後、公益法人化した大阪公衆衛生協会の事務局長に異動されます。私が井戸さんに最後にお会いしたのは、2020 年度の第 61 回日本社会医学会総会の企画委員会を大阪公衆衛生協会の事務室で開催したときでした。この時の学会は COVIT-19 のパンデミックと重なり、オンライン開催となりました。

公衆衛生とくに結核予防の専門家として活躍され、堅実な実務家として事業に取り組む組織の事務局を担い、さまざまな人々とつながり、その中で若い人たちの教育にも従事し、人々を感化し、ホームレスのおじさんはじめ多くの人々に慕われた井戸さんに、ここからの哀悼の意をささげます。